

平成30年度 フレンズジム保護者懇談会&講習会のご報告

2018年8月19日(日) am.10:00~11:30 フレンズジム中川にて開催

先日開催いたしましたフレンズジム保護者懇談会の内容をご報告いたします。
お時間を割いていただきました参加者の皆様には心より御礼を申し上げます！

今回のテーマである、中学校以降の就学や就労先などの情報はとても幅広く、そして年々変化しているものでもあるので、たくさんの情報を分かりやすく丁寧に、それでいて簡潔にお話いただいた永栄さんには感謝しかありません。懇談会終了後も情報交換や永栄さんへの質問を熱心にされている方も多く、短い時間ではありましたが、内容の濃い会となりました。

以下は、進路決定や将来像を考えていく上で、大事にしたいポイントを永栄さんのお話からまとめた内容です。また当日は別添資料のチャートを追いながら、説明いただきました。

どのような支援・進路・就職先があるか情報収集しよう！

<中学校>

子どもにとって第二次成長期である中学生時代に、どんな人たちと出会うか、どんな環境で過ごすのか、ということは心身の成長に大きくかわります。また、中学校では小学校に比べると1年間の学習量が大きく増える点も、考慮すべき点です。

ポイント

- 地域の中学校は出来るだけ足を運んで見学してみましょ。校長先生とも話してみるなどして教育方針を確認することや、校長先生の任期についても考慮点です。
- 在籍は地域の公立中学校だが、実際に通うのはフリースクール、という選択もあります。

<高等学校>

将来像をイメージしながら、3年間どのような学びが必要なのか、お子さんの特性や要望も考慮しながら、最適な進路を決めていきます。就学先によっては、明確に卒業後の就職というルールが見えてくる学校も出てきます。

- 技能連携校・・・「職業もしくは実際生活に必要な専門能力」の修得を目的。高校卒業資格については、技能連携校+通信制高校の2つの学校を卒業することによって得る。
- 通信制高校・・・高校卒業資格も取得でき、発達障がい児に配慮のある学校もある。
- 特別支援（養護）学校・分教室・・・就労や自立活動の訓練が主体となる。
※特別支援学校には就職を重視した学校もある。職業体験ができる授業が組み立てられ、企業への実習もある。

参考 URL 横浜市支援学校：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/shogaijiky/seito-boshu/koutoubu-boshu/index2.html>

- フリースクール・・・高校の卒業単位を取得できる学校と、そうでない学校があるので事前に調べておく必要がある。

<就労支援>

高校を出た後、すぐに就職しない場合や、大学や専門学校への進学を希望しない場合にも相談や支援をしてくれる場があります。

- ・就労移行支援事業所・・・障がいのある方の就職をサポートする福祉サービスで、仕事に関する知識やスキルアップと就職活動のサポート、就職後も長く働き続けられるよう職場への定着支援も行う。
- ・相談機関・・・若者サポートステーション、就労支援センター、などがある。

ポイント

・就労移行支援事業所は、数カ月から2年間までの利用となります。H28年には全国で約3300か所になっています。ただ、事業所毎にプログラムの内容や雰囲気異なりますので、複数の事業所を見学し比較検討することをお勧めします。

<就労>

就労には大きく2つの道がある。一つは障がいを伝えない就労（クローズ就労）。もう一つは障がいを伝える就労（オープン就労）。※障がい者雇用＝オープン就労
オープンの場合、就労先の企業は職場での個別の対応、通院や服薬への理解など様々な点を配慮した採用になるのでより安心して働くことができます。

特例子会社は、障がいのある方が多く勤務しており、職場環境や障がいに対する十分な理解があり、そういったノウハウのある中で働くことができます。

次に、就職とは異なるものの一般企業への就職が困難な場合、雇用契約を結んで働きながら、就労に必要な訓練や支援を受けながら企業への就職を目指す、就労継続支援事業所A型や、雇用契約はないですが、工賃を得ながら就労支援を受けられる、就労継続支援事業所B型があります。

ポイント

・一般企業や特例子会社の人事担当者が障害のある方を採用する際には、主にこんな点が大切なポイントです。

☆コミュニケーション能力（挨拶・返事がしっかりできるかどうか）

☆自力通勤が可能かどうか（自分で毎日通えるか）

☆ご本人について（言葉遣い、面接時の態度、仲間との協調性など）

仕事のスキルも大切ですが、学歴や学力、技術面よりも、その人自身の周囲との関係の持ち方や、生活面の方が重要であることが伺えますね！

上記の内容の他、講演では永栄さん自身のこれまでの取り組みや、お子さんのこれまでの歩みなどもお話しいただきました。また、子どもの体力に関してのお話も興味深いものがありました。大人になるとどうしても運動の機会が減り、鍛えるにはそれなりの努力が必要になります。ただ、中年以降体力は年々みな等しく低下していくので、ピーク時にどれだけ体力を養っておけるかというのが、とても重要になってきます。やはり子どものうちから沢山身体を動かし、体力づくりをしていく事は大事なのですね。

講演後に座談会を予定しておりましたが、それよりも質問したいことが沢山ありそうな会場の雰囲気、急遽永栄さんへの質問タイムとなりましたので、いくつかご紹介します！

Q. 遠方のフリースクールへの通学に不安はなかったか？

A. 本人がとても電車好きで、通学意欲もあったので、自分で決めた好きな学校への進学を決めました。電車を使って行く練習もしました。初めのところはとても心配で、こっそり付いて行っていたが、箱根にも電車を乗り継いで行けたり、各駅停車でのんびりマイペースに電車で揺られていくのが本人も楽しかった様子。たまたま好きなことが進路に繋がったが、それが一番大切だと感じる。本人の自信にもつながった。

Q. 学校とはどのように接点を持っていったのか？どれくらい訪問したのか？

A. 小学校へは本当によく顔を出していた。中学校へは小学校4年時から訪問していた。学校も組織であるため、校長先生の考えは現場へ影響する。また、校長先生も支援級の先生も必ず異動がある。特に小学校では支援級の先生の指導によるところは大きいので、コミュニケーションをとっていき事が大切だと感じた。

Q. 高校の卒業資格は就職に影響するか？

A. 学歴により賃金に差が出てくることはある。ただし、採用に関しては、高校に行かなかったとしても、なぜ行かなかったのか、そこからどのようにして今に至ったのか、といったプロセスや現在の状況が大切になる。(就職後に長く務められる状態なのか) また、就労移行支援事業所を利用すると、そこが最終歴になるので、学歴より重視されやすくなる。

Q. フリースクールについてもう少し様子を知りたい。

A. 通っているフリースクールは勉強が少なく、自主的に活動を決めることができるので、楽しそうな雰囲気。また、通っている学生は不登校などの経緯がある、他者に対して優しい子が多い。学校に自分から楽しく通えることを大切にしていると感じた。

最後に参考になりそうなインターネット情報のURL を載せておきます。宜しければご参考ください。

- エンラボカレッジ <https://enn-lab.jp/>
自立訓練や人との付き合い方を楽しく学び、新しい形の学びの場
- LITALICO ワークス <https://works.litalico.jp/>
障がい者支援事業を全国的に展開している最大手企業
- 厚生労働省 特例子会社一覧
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/tokureikogaisha-ichiran.pdf>

それぞれの進路や就職先を考える

